

は し が き

キャリアコンサルタントという仕事は、人の人生の大切な場面で支えになる素敵な仕事です。この道を選んだ皆様は、きっと人の成長や幸せを手伝いたい、世の中をもっと良くしたいという思いを持っているのでしょう。

でも、そのための試験準備は大変ですよ。仕事や家庭のことをしながら勉強する時間を作るのは難しいし、たくさんのことを覚えて、それをうまく文章にするのも簡単ではありません。試験のことを考えると不安になることもあるでしょう。

本書は、そんな皆様の努力に少しでも寄り添い、サポートさせていただきたいという思いから生まれました。単なる問題集ではなく、心の支えとなり、自信を育む伴走者でありたいと考えています。

本書の模擬問題は、実際の試験を徹底的に分析し、最新の出題傾向を反映させたものです。また、それ以上に重要なのは、解答についての詳細な解説と、論述の問題に取り組む上での考え方に関する内容です。これらは、単に「正解」を示すだけでなく思考力を磨き、文章力を向上させ、スキルアップとなるよう心掛けました。

試験勉強の過程で、ときに大変だなと感じることもあるかもしれませんが。そんなときこそ、なぜこの道を選んだのかを思い出してください。人々を支えたいという温かな思いを。その志こそが、自身を支え、前に進む原動力となるはずです。

本書が、皆様の気持ちに寄り添い、目標達成への道筋を照らす一助となれば幸いです。皆様の努力が実を結び、キャリアコンサルタントとして輝かしい未来を切り開かれることを、心より望んでおります。

最後に、皆様の合格を心から応援しています。

目次

第1章 論述試験について

- 1. 論述試験の概要 6
- 2. 実技試験合格率と論述試験平均点の推移 8
- 3. 事例の種類 10

第2章 論述試験 解法のコツ

- 1. 論述試験の設問構成 14
- 2. 解答にあたってのポイント 16
 - (1) 共通の注意点 16
 - (2) 設問に取り組む前に 17
 - (3) 設問 1 について 17
 - (4) 設問 2 について 19
 - (5) 設問 3 について 22
 - (6) 設問 4 について 24

第3章 模擬問題

◎ 解答例作成における補足事項	28
論述模擬問題 1 [学生 就職活動の悩み]	31
◆解答のポイント	34
◆解答比較解説	34
論述模擬問題 2 [学生 内定後の悩み]	45
論述模擬問題 3 [20代 異動後の悩み]	51
論述模擬問題 4 [20代 将来のキャリアへの不安]	57
論述模擬問題 5 [20代 働き方の選択の悩み]	63
論述模擬問題 6 [20代 キャリア選択の悩み]	69
論述模擬問題 7 [30代 異動に伴う悩み]	75
論述模擬問題 8 [30代 昇進に伴う悩み]	81
論述模擬問題 9 [30代 転職に伴う悩み]	87
論述模擬問題10 [40代 子育て後の再就職の悩み]	93
論述模擬問題11 [40代 正社員就職への悩み]	99
論述模擬問題12 [40代 介護と仕事の両立の悩み]	105
論述模擬問題13 [50代 働き方の変化への対応]	111
論述模擬問題14 [50代 役割と影響力の低下の悩み]	117
論述模擬問題15 [50代 定年後の働き方の迷い]	123

※解答用紙は、キャリアコンサルティング協議会のホームページに掲載されている過去問題（論述試験）の解答用紙をご利用いただくことをお勧めします。

<https://www.career-shiken.org/about/learninfo/>

第 1 章

論述試験について



1

論述試験の概要

論述試験は、事例記録を読み、その内容を踏まえて設問に答えていくというものです。事例記録とは、逐語記録のような一言一句のやり取りを記録したものとは違い、面談の概要をその流れに沿ってまとめたものです。

試験時間は50分間です。事例記録を読み、内容を理解して、設問に答えます。読んで、考えて、書くという一連の作業は、思いのほか時間がかかります。時間が足りないと感じる方も多くおり、タイムマネジメントも合格のための重要な要素になります。

また、論述試験対策に取り組む際には、論述試験は「実技試験」だということを意識しておいていただきたいです。記述式の試験なので、学科試験の延長のように思われるかもしれませんが、学科試験のような知識を問うことを目的にした試験ではありません。

実技試験ということは、面接試験同様、実際にキャリアコンサルティングを行うスキルがあるかが問われています。ただ、相談者が目の前にいませんので、相談者とのやり取りそのものというよりも、面談全体を俯瞰して捉えることに重点が置かれる点では面接試験とは少し異なります。

つまり、実技試験は、相談者の問題とそれに対する支援の方向性について、

- 論述試験では、「どのように認識し、どのように計画したか」
- 面接試験では、「認識、計画したことを実際の行動にできるか」

という2段階で受験者のキャリアコンサルティングのスキルを評価しています（ですので、論述、面接双方の合計点で評価されます）。

論述試験ではキャリアコンサルティング面談で行われた内容を的確に認識できること、そして、相談者に役立つ支援の計画書、設計図が描けることが求められています。

その解答方法は、事例記録を読み込みながら相談者を、そして相談内容を理解した上で、相談者の問題、面談内のキャリアコンサルタントの関わりの意図、今後のコンサルティングの進め方について考えていくという作業になります。

【キャリアコンサルタント試験の内容】

試験区分	出題形式		問題数	試験時間	配点	合格基準
実技	論述試験	記述式（事例記録を読み、設問に解答する）	1 ケース	50分	50点	150点満点で90点以上の得点 ※ただし、論述は配点の40%以上の得点、かつ面接は評価区分「態度」、「展開」、「自己評価」ごとに満点の40%以上の得点が必要
	面接試験	<ロールプレイ> 受験者がキャリアコンサルタント役となり、キャリアコンサルティングを行う。 ロールプレイは実際のキャリアコンサルティング場面を想定して、面談開始からの15分間という設定で行います。 ロールプレイではキャリアコンサルタントとして相談者を尊重する態度や姿勢（身だしなみを含む）で、相談者との関係を築き、問題を捉え、面談を通じて相談者が自分に気づき、成長するような応答、プロセスを心がけてください。 <口頭試問> 自らのキャリアコンサルティングについて試験官からの質問に答える。	1 ケース	20分 （ロールプレイ 15分、口頭試問 5分）	100点	
学科	筆記試験（四肢択一のマークシート方式による解答）		50問	100分	100点	100点満点（2点×50問）で70点以上の得点

実技試験合格率と 論述試験平均点の推移

続いて、論述試験の難易度を把握するために、実技試験の合格率と論述試験の平均点の推移を確認しておきましょう。現行の試験内容に変更された第15回以降の実技試験の合格率と論述試験の平均点をご紹介します。

実技試験の合否は、論述試験と面接試験の合計点で判断されます。合格のためには、論述試験（50点満点）と面接試験（100点満点）の計150点満点中90点以上の得点が必要です。全体の6割以上ということになりますので、単純計算すれば論述であれば30点以上、面接では60点以上が必要ですということになります。

では、実際の試験結果はどうでしょうか。論述試験の平均点は30点以上、最近では32～33点で推移しています。一方、面接試験の平均点はぎりぎり60点、場合によっては60点を切ることがあります。これだけを見ると論述試験のほうが点数は取りやすそうです。合格を確実なものにするためには、論述試験で確実に30点以上、できればそれ以上の点数を取っておくことが必要です。論述試験に手ごたえがあると、その後の面接試験にも余裕をもって臨めます。

特に面接に苦手意識のある方は、面接試験の得点を伸ばすための対策に取り組むとともに、面接試験の不得手をカバーする意味でも、少しでも論述試験で得点を伸ばしておくことをお勧めします。

【実技試験合格率と論述試験平均点の推移】

	実技試験 合格率	論述試験平均点 (50点満点)	面接試験平均点 (100点満点)
15回	61.7%	31.2点	61.5点
16回	59.4%	30.6点	61.3点
17回	57.0%	30.3点	60.9点
18回	68.0%	32.5点	61.3点
19回	59.7%	30.9点	61.1点
20回	57.5%	30.7点	60.8点
21回	54.9%	30.3点	60.4点
22回	65.3%	33.1点	59.9点
23回	63.3%	32.0点	60.7点
24回	65.8%	32.6点	60.6点
25回	67.8%	33.1点	60.2点
26回	58.6%	31.5点	59.9点

※キャリアコンサルタント試験 試験結果（キャリアコンサルティング協議会）より作成

3

事例の種類

論述試験で出題されている相談事例についてご紹介します。どのような相談者のどのような相談内容が出題されたのか、相談者属性と相談概要をまとめてみました（現行の試験内容になった第15回以降のものを記載しています）。

まずはこれらを眺めて出題のイメージを捉えてください。

試験で出題された相談者の属性や抱えている悩みはさまざまです。働き方や働く環境が多様化するにつれて、相談者が抱える問題も多様化しています。今後の試験でも今までなじみのない、または聞いたこともないような相談者・相談内容が出題されることがあるかもしれません。ただ、そのような場合もキャリアコンサルタントとして行う支援の本質には変わりはありません。キャリアコンサルティングとは、またキャリアコンサルタントとは、どのようなことを行うのかを考え、落ち着いて対応していただきたいと思います。

【主な相談内容】

相談者	相談内容
学 生	「進路の悩み」 ・ 10代 短大生 このまま保育士になるのはどうなのか ・ 20代 大学生 進学するつもりだったが、就職も気になる
社会人	「非正規・フリーランスの働き方の悩み」 ・ 20代 派遣社員 契約更新はないと言われた。早く次のところを見つけなければ ・ 20代 契約社員 業界全体が厳しい中、将来を考え安定した仕事についたほうがよい ・ 40代 パート 今後の教育費のため正社員を目指したほうがと思うが、できるのか不安 ・ 30代 フリーランス 収入が減り、今後厳しいと感じる。また会社勤めに戻るか 「企業内での働き方の悩み」 ・ 20代 正社員 今の働き方では将来が不安。同期にも差をつけられショックで悔しい ・ 40代 正社員 今後もっと活躍してほしいと言われるが、今のままがよい ・ 40代 正社員 もう少し子供を見てあげたいが、今の会社では希望する働き方ができない ・ 40代 正社員(課長職) 中心メンバーの相次ぐ退職で大きな穴が空き、どうしたらよい 「その他」 ・ 30代 専業主婦 不妊治療を始め、お金もかかるので働いたほうがよい

第 2 章

論述試験 解法のコツ



1

論述試験の設問構成

本章では、具体的な解答のポイントを見ていきましょう。まずは、設問を確認します。過去、第15回試験のときに出題形式の変更が行われ、直近は下記の形となっています。

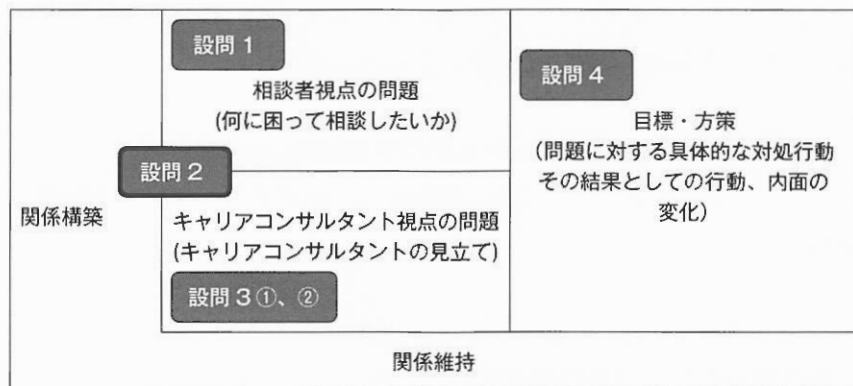
- 設問1 事例記録の中の「相談の概要」【略A】の記載に相当する、相談者がこの面談で相談したいことは何か。事例記録を手掛かりに記述せよ。(10点)
- 設問2 事例記録の【下線B】について、この事例を担当したキャリアコンサルタントがどのような意図で応答したと考えるかを記述せよ。(10点)
- 設問3 あなたが考える相談者の問題(①)とその根拠(②)について、相談者の言動を通じて、具体的に記述せよ。(20点) 2×10点
- ①問題
- ②その根拠
- 設問4 設問3で答えた内容を踏まえ、今後あなたがこのケースを担当するとしたら、どのような方針でキャリアコンサルティングを進めていくか記述せよ。(10点)

設問1は「相談者視点の問題」を、設問3は「キャリアコンサルタント視点の問題」を「根拠」も含めて記述します。つまり、設問1と3

は、併せて「相談者の問題は何か」を問う問題です。また、設問2ではキャリアコンサルタントの応答の「意図」について、そして、設問4では「今後の支援の方針」について問われています。受験者は事例記録を読み、これらの問題に答えていきます。

ここで、「論述試験は実技試験である」ということを思い出してください。論述試験の問題はシステムティックアプローチに基づくキャリアコンサルティングプロセスに則った構成になっています。これを図に示すと次の通りです。

【論述試験とキャリアコンサルティングプロセスの関係】



論述試験は、上図のようにキャリアコンサルティングのプロセスに則った問題構成になっており、特に「問題把握」と「目標・方策」を問う内容になっています。「基本的態度」や「関係構築」については主に面接試験のほうで確認します。もちろん、そうはいつでも、論述試験に取り組む際にも「関係構築」を意識して臨むことは必要です。

〔著者略歴〕

つだ ひろこ
津田 裕子

2級キャリアコンサルティング技能士（国家資格）

キャリアコンシーオー 主宰／株式会社リバーズ 取締役

大阪府出身。大学卒業後は一般企業にて一般事務や経理、総務、人事を経て、採用担当として面接官を経験。その後、職業訓練校での講師経験を機に2014年からキャリアコンサルティング分野への造詣を深める。

現在はキャリアコンサルタント事業を展開する「キャリアコンシーオー」にて合格講座を運営。学生への就職サポート、企業内や企業外のキャリアコンサルティングなども行い、これまでに1万件を超える相談実績がある。また、厚生労働大臣認定のキャリアコンサルタント養成講習、厚生労働大臣指定の更新講習も開講、運営している。

〔執筆協力〕

おくだ ひろこ
奥田 裕子

1級キャリアコンサルティング技能士（国家資格）

人事・組織開発のコンサルタントとして数多くの企業の従業員の方たちとかかわる中で、個々人へのキャリア形成支援の必要性を強く実感し、キャリアコンサルティングの世界に関心を寄せるようになる。その後、主に公共の就労支援機関や需給調整機関、職業訓練学校でのキャリアコンサルティングやセミナー講師業務などに従事するとともに、一般のビジネスパーソンに向けたキャリアコンサルティングやコーチングを行う。また、近年ではキャリアコンサルタントの有資格者や資格取得を目指す方たちへのスキルアップや資格取得の支援にも積極的に取り組んでいる。